

令和8年第2回定例会

9月議会

県議会

あ き た

だより

令和8年10月発行

No.197

全戸配布広報紙

年4回発行

ユネスコ無形文化遺産 山・鉾・屋台行事
角館祭りのやま行事(平成28年登録)



一般質問

7人の議員が一般質問を行いました。
各議員の主な質問と知事等の答弁の要旨を掲載します。



さとうのぶき
佐藤信喜議員

[会 派] 自由民主党
[選挙区] 能代市山本郡

●主な項目

- ① 本県の将来を支えるエネルギー・産業政策について
- ② 本県農業の持続可能性について
- ③ 高校スポーツの競技力向上について
- ④ 地域企業との交流を通じた高校生の県内定着について
- ⑤ 老朽危険建築物への対応について



高校スポーツの 競技力向上について

Q かつての強化拠点校や強化指定選手の取り組みも踏まえ、県内の有望な選手を地元で育て、全国上位を継続的に目指す競技力向上策を新たに検討する考えはないか。

A (知事) 検証委員会※から新たな指導体制の構築などが提言されたところであり、時代の変化に応じた競技力向上対策に取り組む必要があると考えている。まずは、様々な知見やノウハウの蓄積がある高校野球について、これまでの強化策の検証や現状分析を行った上で、来年度から新たなプロジェクトを立ち上げて強化を図っていく。

※スポーツ環境及び高校入試制度のあり方検証委員会

老朽危険建築物への 対応について

Q 老朽危険建築物の把握はどのようにしているのか。相談や危険情報を行政機関で情報共有し、早期指導につなげる仕組みの検証や、相談窓口などの分かりやすい周知を行うべきではないか。

A (知事) 地域住民からの通報や市町村からの情報提供、一斉パトロールなどにより実態把握に努めている。危害を及ぼすおそれのある建築物は、建築基準法に基づき安全対策を講じるよう所有者などに指導している。寄せられた情報が行政機関で確実に共有され、適切に対応できる仕組みとなっているかを改めて点検するとともに、市町村と協力しながら、相談窓口などの周知を図っていく。



やまがたけんじ
山形健二議員

[会 派] みらい
[選挙区] 横手市

●主な項目

- ① 雪下ろし事故ゼロを目指す雪国づくりについて
- ② 高校再編と県南地域の教育環境について
- ③ 高校生の昼食環境の充実について



高校再編と県南地域の 教育環境について

— 県南地区統合校へのスポーツ系列等の設置 —

Q 県内外の優秀な選手を呼び込む可能性がある総合学科に、「スポーツ系列」や将来的なスポーツ科などの専門学科の設置を検討できないか。

A (教育長) 総合学科には、健康増進やスポーツ振興に貢献できる人材育成を目指し、新たな系列の設置に向けて検討を重ねている。スポーツ科の設置は、卒業後の進路の見通しや中学生の志望動機などを踏まえて慎重に見極める必要があり、今後、地域の実情やニーズ等に基づき、適切に協議を進めていく。

高校生の昼食環境の 充実について

— 学校給食の「将来ビジョン」の策定と高校給食の拡大 —

Q 高校給食の拡大について、市町村や市町村教育委員会等による協議の場を設け、条件の整った地域から具体的な検討を進めるべきではないか。

A (教育長) 生徒の健やかな成長には、成長期に必要な栄養の確保が重要であり、高校での給食提供には大きな意義がある。このため、少子化による児童生徒数の減少や学校再編、老朽化による給食施設の更新等に関する情報を収集するとともに、給食提供を要望する高校の状況を把握して市町村と共有するなど、可能性を探っていく。



さ さ き ゆ う た
佐々木雄太議員

[会 派] 自由民主党
[選挙区] にかほ市

●主な項目

- ① 秋田県財政の出口戦略と持続可能な地域経営について
- ② 高校入試制度改革と魅力ある高校づくりについて
- ③ 映画「ルックバック」を契機とした映画ツーリズムの推進について
- ④ 医療的ケア児・重症心身障がい児とその家族への支援について
- ⑤ 社会的養護経験者の自立支援について
- ⑥ 警察本部長の着任所信について



映画「ルックバック」を契機とした映画ツーリズムの推進について

Q ロケ地を活用した映画ツーリズムを、新たな観光戦略としてどのように展開していくのか。また、ロケ誘致から公開後の誘客までを一体的に支援する仕組みを構築できないか。

A (知事)にかほ市やJR東日本等と連携し、ロケ地マップや案内サインの整備、撮影セットの復元展示等の受入環境の充実を図っているほか、SNSでの効果的な情報発信やロケ地巡りと宿泊を組み合わせた旅行商品の造成にも取り組む。今回の取組をモデルとして、映像作品を切り口とした戦略的な誘客を推進し、新たな交流人口の創出と旅行消費額の拡大につなげていく。

社会的養護経験者の自立支援について

Q 「社会的養護自立支援拠点事業」(P3①)の導入に向けて、建物を新設せず、既存施設等への委託を基本とするスモールスタートを検討できないか。

A (知事)自立援助ホーム(P3②)の整備を進めてきたが、今年度行ったアンケートで、十分にカバーできていないニーズがあることも把握した。このため、社会的自立支援拠点事業については、これまでの取組の充実や既存の支援機関との連携のあり方とあわせて、必要な機能や体制の検討を進めていく。

Glossary

用語解説

【①社会的養護自立支援拠点事業】

児童養護施設を退所した人などの社会的養護経験者や、虐待経験がありながらもこれまで公的支援につながらなかった人たちの孤独・孤立を防ぐことを目的に、令和6年3月にこども家庭庁が創設。当事者が安心して集うことのできる交流の場を開設し、生活に役立つ情報提供や相談・助言を行う。さらに、関係機関と連絡調整して必要な支援につなぎ、自立した生活を送ることができるよう寄り添いながらサポートする。

【②自立援助ホーム】

義務教育を修了し児童養護施設などを退所した人のほか、就労後間もない人、就学中、求職中など様々な状況にある若者を対象に、その自立支援を行う施設。身近に頼ることのできる大人がいない若者に対し、住居や食事の提供、就労・学習・生活の助言を実施している。社会に踏み出すまでの安心できる生活拠点として自立を支えるとともに、施設を離れた後も継続して相談に応じるなど、社会で孤立しないための頼れる拠点となっている。

一般質問

7人の議員が一般質問を行いました。
各議員の主な質問と知事等の答弁の要旨を掲載します。



おの かつひこ
小野一彦議員

[会 派] 自由民主党
[選挙区] 由利本荘市

●主な項目

- ① 本県農業の持続可能性と所得向上対策の推進について
- ② 多様な住民自治を育む戦略について
- ③ ハイエンド発酵ツーリズムの推進について



本県農業の持続可能性と 所得向上対策の推進について －持続的な農業経営への支援－

Q 「米価安・資材高」による離農を防ぎ、持続的な農業経営ができるよう、国への政策要望を強力に展開すべきではないか。

A (知事) 主食用米の需給安定やスマート技術の普及拡大に加え、国の事業を活用し、カントリーエレベーターの再編整備や合理化の支援、スマート農機の導入による農業支援サービス事業体の育成を図り、生産基盤の強化を推進する。政府備蓄米については、適正な在庫水準である100万トンの早期回復や、需給緩和時の弾力的な買い入れ等を、他道県や農業団体と連携しながら国に強く要望していく。

多様な住民自治を育む戦略について －あきた元気ムラの評価・継続・活用－

Q 本県独自の仕組みとして定着した「あきた元気ムラ」(P5③)の活動を分析・評価し、今後も話し合いの場づくりや情報発信などへの支援を継続しつつ、活動成果の活用を図るべきではないか。

A (知事) 現在、94の元気ムラが活動しており、住民のつながり強化や新たな活動が生まれるきっかけにつながっている。一方で、少子高齢化によるメンバー減少などの課題もあるが、地域運営組織の形成にもつながることから、関係人口も含めた多様な主体の参画により担い手を確保しながら、市町村と一層連携し、住み慣れた地で生き生きと暮らし続けられる地域づくりを進めていく。



こだま まさひろ
児玉政明議員

[会 派] 自由民主党
[選挙区] 鹿角市鹿角郡

●主な項目

- ① 秋田県総合計画の進捗と県民が実感できる成果に向けた決意について
- ② 次世代型地熱発電の戦略的な推進について
- ③ 再生可能エネルギー電力の県有施設への導入について
- ④ 県産農畜産物の輸出拡大について
- ⑤ 産業人材・技能者の育成について
- ⑥ クマ対策における県の行動計画策定と財政支援の拡充要望について
- ⑦ 地域みらい留学を活用した県外生徒の受入拡大について



秋田県総合計画の進捗と県民が 実感できる成果に向けた決意について

Q 県総合計画の進捗状況をどのように認識しているか。また、県民が「秋田は変わった」と実感できる成果を生み出すため、どのように目標を達成していくのか。

A (知事) 移住者数や延べ宿泊者数などが目標を上回り手応えを感じる一方、人口の社会減など、より一層踏み込む必要がある課題も顕在化している。計画には、年度ごとの数値目標を数多く設定し、月単位で把握・分析するとともに、企画から実施までマーケティング手法を取り入れて事業を推進している。今後も社会ニーズの変化に対応した取組を機動的かつ柔軟に展開し、達成につなげていく。

県産農畜産物の 輸出拡大について

Q 2029年度の県産農畜産物輸出額40億円の目標達成に向け、どのような戦略で輸出拡大を進めていくのか。

A (知事) 秋田牛の1頭フルセット販売やその生産基盤の強化、米の新規輸出先の開拓に向けた現地でのテストマーケティングや、低コスト生産技術の実証などに取り組む。青果物は「秋田紅あかり」を中心に現地量販店等と連携し高単価での取引を目指すとともに、台湾で需要が高まっている「白神ねぎ」の新たな海上輸送ルートの構築に取り組む。昨年8月に設立した協議会(P6④)が核となった販売支援体制の構築や、トップセールスの展開などにより、全県一丸となって果敢に取り組んでいく。



- ① 高校スポーツと高校入試制度の見直しについて
- ② 特定利用空港・港湾の指定について
- ③ 米軍機の低空飛行訓練による騒音被害対策について
- ④ 新サッカースタジアム整備について
- ⑤ 県管理道路の今後のあり方検討事業について
- ⑥ ツキノワグマ出没時に子どもの命を守るための支援策について
- ⑦ 旅客運送事業者に対する燃料高騰対策について
- ⑧ 子ども劇場の評価と活用について



元気ムラ登録地域
94地域(613集落)

一般質問

7人の議員が一般質問を行いました。
各議員の主な質問と知事等の答弁の要旨を掲載します。



たかはし けん
高橋健議員

[会 派] 自由民主党
[選挙区] 湯沢市雄勝郡

●主な項目

- 1 建設業の将来と時代に即した施工基準の見直しについて
- 2 地域振興局の再編について



建設業の将来と時代に即した施工基準の見直しについて ー持続可能な建設業のあり方ー

Q 建設業を、地域を災害から守り抜く強靱な産業として発展継続させるため、施工基準や規則を技術の進歩や気象状況の変化に合わせて大胆に見直すべきではないか。

A (知事) 現場の実情に即した適切な基準や制度の運用が不可欠であり、これまでも施工基準等を見直しを重ねてきた。品質に関わる基準緩和には慎重な対応を要するが、新技術・新工法の導入や業務プロセスの合理化、現場の負担軽減や生産性向上につながる基準の見直しを検討していく。また、各種基準に加え、施工や働き方など生産システム全体の高度化・効率化を図られるよう、不断の改善に取り組んでいく。

地域振興局の再編について ー中長期的な将来ビジョンー

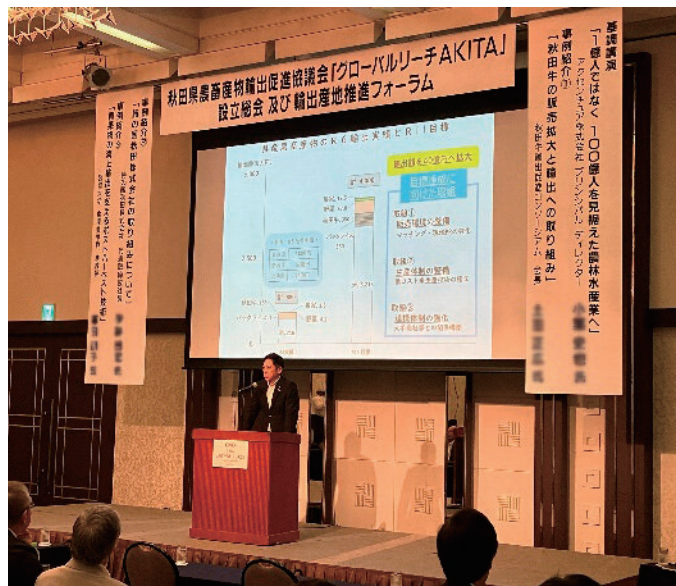
Q 郡部の住民や地元企業が将来にわたり安心して住み続け、経済活動を営んでいく上で、地域振興局の中長期的なビジョンをどのように考えているか。

A (知事) 将来的には広域機能を担う総合的な地方機関としての地域振興局と、現地での個別業務を担う出先事務所への再編を想定している。今後も県民が住み慣れた地域で安全・安心に生活し、事業活動を継続できるよう、広域的な視点や専門性を生かした支援、多様な主体との連携強化などにより、地域の特徴を生かして発展する秋田を目指していく。

Glossary 用語解説

【④秋田県農畜産物輸出促進協議会(グローバルリーチAKITA)】

県産農畜産物の輸出拡大を目指し、秋田県知事を会長として令和7年8月に設立。
国際競争力の強い産地を育成し、県産農畜産物の輸出拡大を図るため、農業や流通・貿易などの県内関係事業者と市町村が一丸となりオール秋田体制で、輸出規制への対応や物流体系の構築など、輸出促進に向けた課題解決や輸出先国でのプロモーションに取り組んでいる。



秋田県農畜産物輸出促進協議会の設立総会(令和7年8月)

Q が引き出す A

議会で質問が
3回行われるワケ

Q

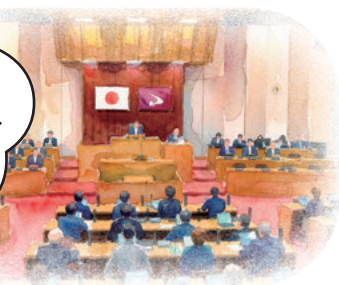
その1

まずは、
「**本会議での一般質問**」。



登壇する各議員が、普段の議員活動でくみ取った課題や問題意識を「Q」に置き換えて、知事や部長の考えをたどします。

時間は30分。
Qの背景にある状況や
県民の声、自分の考えなどを
入れながら、まとめて
質問します。



ワンポイント

質問する議員の数は議会ごとに異なりますが、
概ね8名から12名です。

Q

その2

続いて、
「**常任委員会での審査**」。



各常任委員会に分かれて、担当する
分野ごとに、県の予算や事業内容・取
組などについて、部長や課長に「Q」を
投げかけます。



質疑は一問一答方式。
議員それぞれの視点で
深掘りしながら確認します。



ワンポイント

全ての議員は、いずれかの常任委員会に必ず
所属しています。

Q

その3

そして、
締めの「**総括審査**」。



一般質問や、常任委員会を踏まえ、
「あれっ」とか「もう少し突っ込んで
聞きたい」と思ったことに焦点をあ
て、知事や部長への「Q」を納得が
いくまでつきつめます。

だから、分野を超えて、
いろんな質問が
飛び交うんだね。



ワンポイント

質問時間は会派ごとに割り当て。議員は、会派内
で決めた各自の持ち時間を使って質問します。

A

ファイナル

最終日の「**本会議**」。



議会に提出された全
ての議案について、賛
否により、可決・否決を
決定します。



賛成多数で **可決**
賛成少数で **否決**



まとめ

3回の質問の機会を通じて、しっかりと確認し、
最終決定を行います。

総務 企画 委員会

Q 「地域課題解決ビジネス創出事業」について、これまでも地域課題の解決に向けて多様な主体が同様の取組を実施してきたが、採算が合わず継続しなかった経緯がある。補助金に頼らない採算性の確保と事業の継続をどのように考えているのか。

A 収益を確保しながら、事業を持続させる仕組みづくりが重要なことから、調査段階から専門家の知見を活用し収益性を見極め、事業の自立化に向けて、官民一体となって取り組む。また、関係部局と連携し、物流やクマ対策など複数の課題への解決策を組み合わせ、コスト削減や、採算性確保が図られるよう、計画の策定を進めていきたい。

Q 移住ブーストキャンペーンなど、移住者を増やす取組の手応えをどう感じているのか。また、移住定住登録世帯に実際に移住してもらうため、今後どのように取り組んでいくのか。

A 新規登録数や移住相談件数は、前年度と比べて増えており、今年度から2年間の集中的キャンペーンの成果が出始めている。アキタコアベースでは、マーケティングアドバイザーを交えたミーティングを定期的に開催し、専門家の視点を取り入れたアプローチを強化するなど、増加傾向にある登録者を着実に移住につなげていきたい。

福祉 環境 委員会

Q 衛生看護学院のサテライト施設は、由利本荘看護学校と比べ、看護技術演習等のため横手本校への移動が必要になるなど、学習環境が悪化する面もあるが、志願者を確保できる見込みはあるのか。また、冬期間の本校へのバス移動は学生の負担も大きく、宿舍の確保など、負担軽減策を検討しているか。

A 地元からの通学や学費の安さ、ITを活用した新たな教育スタイルの魅力を発信し、志願者の確保を目指す方針である。宿舍の整備や補助は、遠方から本校へ通学している学生との公平性の観点から難しいが、バスの発着場所の工夫など、学生の負担軽減策を引き続き検討していく。

Q ツキノワグマ大量出没時緊急体制整備事業において、秋田県建設業協会の支援適用の目安を「1週間当たりの捕獲頭数が昨年ピーク時の8割以上等」としているが、現場の状況等に応じて柔軟に適用すべきではないか。また、現場作業員に重大な事故や怪我が発生した場合、県が手当や補償を行う用意はあるのか。

A 本事業は、市町村の負担がピークに達し作業が困難となる状況を回避するための取組であり、8割を目安としつつ、市町村からの申し出に応じて柔軟に対応する。また、作業員には、防護服等の貸与を予定しているほか、県が傷害保険に加入し、金銭的補償をすることになっている。

農林 水産 委員会

Q あきたの米ぢから向上対策支援事業について、地域農業を支える共同利用施設の老朽化による再編集約・合理化を図ることで、各施設の稼働率はどのように改善されるのか。また、老朽化への対応だけでなく、輸出拡大等に向けた戦略的な改修を進めていくべきではないか。

A 事業主体の管内で広域連携し、各施設の役割を明確にすることにより、効率的な集出荷体制を構築し、稼働率の平準化を図っていく。今後、米の生産力維持のためには輸出の取組が不可欠であることから、協調助成制度を提案しながら、地域農業を持続可能なものとする前向きな再編・集約に取り組んでいきたい。

Q 秋田森林産業クラスター構築推進事業によって、地元企業にどのような効果が見込まれるのか。素材生産のみならず、製材や流通など、それぞれの業界が発展するための調査研究を進めていくべきではないか。

A 森林資源の情報と、各業界における需要をマッチングし、生産者と加工・流通業者が情報共有を図ることで、大規模工場に丸太が集中している現状を解消し、全ての事業者が恩恵を受けられる仕組みの構築を目指していく。そのためには間伐などの森林整備が重要であり、既存事業との相乗効果を図りながら取り組んでいく。

産業 観光 委員会

Q 日本酒県秋田プロモーション事業について、日本酒市場において、他県と差別化し、「日本酒」＝「秋田」のイメージを定着させるには、まだ日本酒の美味しさに気付いていない若者などの新規顧客の開拓や、県外でのイベント開催など、秋田の日本酒を手にとってもらう機会を増やすような戦略が必要ではないか。

A 本県は、全国新酒鑑評会の入賞率が全国1位と実力はあるものの、まだ認知度が低いため、客観的データに基づいたブランドストーリーを構築し、全国に発信することで、「日本酒といえば秋田」のイメージ定着を図っていく。また、秋田の日本酒と一目で識別できるよう地域GIを取得し差別化を図るほか、首都圏・関西圏の商談会や消費者向けのイベント等を通じて、認知度向上と消費拡大につなげていく。

Q 地域商業販売力強化プロジェクト事業について、イベントや割引など一過性の取組で終わらず、各店舗や商店街、組合の成長が期待できるEC対応やテイクアウト強化などにつなげるべきではないか。また、新規顧客の開拓ではなく、既存客への割引にとどまっている現状から、商店街が変わっていきけるよう後押しする仕組みが必要ではないか。

A 店舗の認知や魅力再発見によるリピーター確保のほか、複数商店街の連携による周遊ルートの作成や、デジタルデータを活用した顧客管理などの効果を期待している。優れた取組は各店舗や商店街に横展開するとともに、商工団体等の支援団体と連携したサポートを行っていく。

建設 委員会

Q 県管理道路の今後のあり方検討について、経費削減の視点ではなく、住民の生活基盤を守る視点から、関係市町村や住民との検討を始めるべきではないか。

A 将来に向けた、効率的で持続可能な維持管理のあり方を模索しており、まずは今回示した路線や区間について、市町村と共に調整を進めていきたい。また、維持管理のレベルについては、安全安心に通行できる必要最小限の管理は行っていく考えである。

Q 秋田空港や秋田港などが特定利用空港・港湾に位置づけられる場合には、県として密な事前調整体制の構築や要望を行っていくべきではないか。

A 特定利用空港・港湾として位置づけられる場合には、国と県で「円滑な利用に関する確認事項」を取り交わし、県の要望や懸念事項を明記する。位置づけ後は、年1回以上の連絡調整体制を構築し、事前に訓練等の告知を受け、詳細を協議する。協議の際には、県として是々非々の方針で臨み、受け入れる場合には必要な情報を関係市や住民へお知らせする。

教育 公安 委員会

Q 成功裏に終了した全国高等学校総合文化祭の成果を今後どのように生かしていくのか。

A 参加した県内高校の生徒は大きな感銘を受けており、文化部活動の活性化につながったと考えている。大会参加者や運営に関わった生徒には、今回の経験を進学先や就職先で生かしてもらうとともに、県としても、県全体の教育を盛り上げていくことにつなげていきたい。



総合開会式

Q 「秋田県警察組織条例の一部を改正する条例案」により警察のサイバー事案に係る事務の所掌を警務部と定め、部門の一元化に併せて、関係機関との連携も深めるべきと考えるが、どのように対応を進めていくのか。

A 新たに発足する「サイバー・デジタル局(仮称)」は、警察庁とのつなぎ役になるとともに、県警察組織内の司令塔の役割を担うこととなる。各部門との会議や調整を機動的に行い、連携を深めていきたい。

予算特別委員会

予算 特別 委員会

Q 米価の下落や国の令和9年度からの水田政策の見直しなど、厳しい農業情勢の中、県は農家にどのような支援をしているのか。

A 米価の変動や国の政策の見直しに、個々の農家に対応していくのは大変なことに認識している。現場にしっかり関わり実情を把握した上で、県ができる対策や支援を進めていく。難しい局面であるが、同時にチャンスでもあり、「あの時大変だったが、そこから伸ばしていった」と言えるような農業の実現を後押ししていきたい。

MOVIE



10月2日



10月5日

県内調査

常任委員会では、審査の参考にするため、県内外の先進事例などの視察や調査を行っています。

教育公安委員会

大館警察署で、「志願者に伝えたい、秋田県警の魅力」をテーマに、若手警察官と意見交換を行いました。また、大湯ストーンサークル館で、大湯環状列石の歴史的価値や、利活用の現状などについて説明を受け、施設を視察しました。

7月30日(木)、7月31日(金)

- ① 第50回全国高等学校総合文化祭(あきた総文2026)小倉百人一首かるた
- ② 大館警察署
- ③ 秋田県立鹿角高等学校
- ④ 史跡尾去沢鉱山
- ⑤ 大湯ストーンサークル館



大館警察署若手警察官との意見交換の様子



大湯ストーンサークル館の視察

令和8年第2回定例会〈9月議会〉表決状況

議案等	件名 ※下記以外の議案等については全会一致で可決等 されました。 ※9月議会(10月7日)の本会議における表決状況は右の二次 元コードからご覧になれます。	議決月日	議決結果	表決者数	賛成者数	反対者数	自 民				
							鈴木 洋一	鶴田 有司	川口 一	柴田 正敏	加藤 鉦一
知事提出	令和8年度秋田県一般会計補正予算(第3号)	10/7	原案可決	38	37	1	○	○	○	○	○
	秋田県立衛生看護学院条例の一部を改正する条例案	10/7	原案可決	38	37	1	○	○	○	○	○
	地方独立行政法人秋田県立病院機構の中期目標の変更について	10/7	原案可決	38	37	1	○	○	○	○	○
	令和8年度秋田県一般会計補正予算(第4号)	10/7	原案可決	38	37	1	○	○	○	○	○
	令和7年度秋田県公営企業会計決算の認定について(認定第1号)	10/7	認定	38	37	1	○	○	○	○	○
議員提出	航空自衛隊航空救難団秋田救難隊の設置運用に関する協定についての意見書	10/7	否決	38	6	32	×	×	×	×	×
請願	特定利用空港・港湾の指定について	10/7	不採択	38	6	32	×	×	×	×	×
	特定利用空港・港湾の指定に同意しないことを求める請願について	10/7	不採択	38	4	34	×	×	×	×	×

議会レポート

●令和8年第2回定例会〔9月議会〕

■期間 9月8日～10月7日(30日間)

●議案の議決状況

知事提出議案

■予算 可決 4件

- ◆令和8年度秋田県一般会計補正予算(第3号)
94億9,410万円
ほか補正予算3件

■条例 可決 7件

- ◆秋田県立衛生看護学院条例の一部を改正する
条例案

ほか6件

■決算 認定 2件

- ◆令和7年度秋田県公営企業会計決算の認定に
ついて(認定第1号)

ほか1件

■その他 可決 9件

- ◆地方独立行政法人秋田県立病院機構の中期目
標の変更について

ほか8件

可決された意見書

可決 4件

- ◆私学助成の充実強化等に関する意見書
- ◆障害基礎年金と障害厚生年金の「制度の狭間」
解消に関する意見書
- ◆米の安定的な生産及び消費を実現する米政策
の確立を求める意見書
- ◆国土強靱化の強力な推進に必要な予算の確保
を求める意見書

採択された請願

採択 1件

- ◆私学助成に関する意見書の提出を求める請願
について

議会開催予定

令和8年第2回定例会(10月議会)
令和8年10月14日(水)～11月2日(月)

令和8年第2回定例会(12月議会)
令和8年11月24日(火)～12月18日(金)

※変更となる場合は、秋田県議会ウェブサイトでお知らせします。

お知らせ

「行ってみよう。県議会。」

普段は見ることができない
議事堂の裏側を、ショート動
画でご案内!

重要な会議を行う「大会
議室」には、歴代議長の姿
も…!?



ショート動画は
こちら

動画の 後には、県議会の
傍聴にも足を
運んでみてく
ださい。



自民：自由民主党 みらい：みらい 立民：立憲民主党 社民：社会民主党 共産：日本共産党 公明：公明党 きらり：きらり ひらく：ひらく会
賛否欄 「○」：賛成 「×」：反対 「議」：議長 「欠」：欠席

自 民																					みらい				立民				社民	共産	公明	きらり	ひらく		
工藤 嘉範	原 幸子	竹下 博英	北林 文正	高橋 武浩	今川 雄策	佐藤 信喜	杉本 俊比古	佐々木 雄太	鈴木 真実	小野 一彦	小山 緑郎	児玉 政明	住谷 達	宇佐見 康人	島田 薫	瓜生 望	高橋 豪	小棚木 政之	武内 伸文	高橋 健	川邊 隼之介	三浦 英一	渡部 英治	三浦 茂人	佐藤 正一郎	山形 健二	石田 寛	小原 正晃	薄井 司	櫻田 憂子	加藤 麻里	加賀屋 千鶴子	松田 豊臣	佐藤 光子	福田 博之
議	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	×	○	○	○
議	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	×	○	○	○
議	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	×	○	○	○
議	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	×	○	○	○
議	×	×	×	×	欠	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	欠	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×
議	×	×	×	×	欠	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	欠	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×
議	×	×	×	×	欠	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	欠	○	×	×	○	○	○	○	×	×	×

「県議会への意見募集」結果

議会の審議や政策提言の参考とするため、7月10日(金)から8月14日(金)まで6テーマについて意見を募集しました。たくさんお寄せいただいた中から、一部をご紹介します。

募集結果はこちら



窓の開放や庭の手入れすら怖い。日常生活に支障が出ている。様々な意見があると思うが、早く駆除してほしい。

人の安全を第一にしながら、駆除だけに頼らず、人とクマが共存できる対策を進めてほしい。

クマ被害対策



ベアドックによる追い払い、電気柵、生息状況の把握など、捕獲前の対策をより充実させてほしい。ゴミ箱設置などの誘引物管理も大事。

J1昇格への架け橋、若い人の集いの場、ツアーライブの会場提供などたくさんのメリットがある。次代のこと、夢のある街づくりのことを考えてほしい。



スタジアム整備による賑わい創出



月2回程度の試合開催では、整備後の賑わいも一時的。商業施設や観光地にスタジアムをプラスする形がいいのでは。

自家用車に頼らない移動を広げ、利用者の増加につなげるため、月額5,000円程度で利用できるバス・タクシーのサブスクリプション制度を取り入れては。



次世代に向けた県議会活動の情報発信

県議会が何をやっているのか、説明会や見学会があればいい。見て聞いて雰囲気を感じる場があれば興味が出てくるのでは。



バスや電車などの地域公共交通



行政頼みの路線維持は持続不可能。住民や利用者が交通インフラの担い手・株主となり、共にサービスを育てていく「共創」の仕組みを取り入れては。



「軍事化が目的ではない」と論点を封じるのではなく、広く県民を巻き込んだ形で議論を行ってほしい。

特定利用空港・港湾



「秋田空港に戦闘機を配備しない」「戦闘機訓練に使用しない」という協定は絶対に維持してほしい。

受入は4箇所とせず個別協議とするか、どうしても必要なら1箇所に歯止めがかかる仕組みを盛り込んでほしい。

子どものスマートフォン利用

地域に実体験できるような場所が不足していることが、過度な依存の一因では。

表紙 角館祭りのやま行事

約400年続く地域の繁栄や商売繁盛、無病息災などを祈願する行事。9月7日から9日に行われ、武者人形を載せた曳山には「おやま囃子」を奏でる人たちが乗り終始囃し、秋田おばこたちが艶やかに手踊りを披露しながら町を練り歩く。通行の優先権を巡る曳山同士の交渉が決裂し、互いに激しくぶつつけ合う「やまぶつつけ」が始まると、盛り上がりも最高潮に達する。



表紙写真提供：(一社)田沢湖・角館観光協会

仙北市ウェブサイト